

特集

# 女性リーダーが 輝く時代

日本初となる女性総理の誕生は、時代がまた一つ、新しい段階に入ったことを表しているかもしれません。世の中の様相によって、求められるリーダーの形は変わってきます。

変化が激しく、予測が立てにくい不安定な世の中だからこそ、女性の力が求められる理由があります。



## 世界的に増えている女性リーダー

昨年10月、高市早苗氏が、日本の憲政史上初めてとなる、女性総理大臣に就任しました。

高市内閣の支持率は非常に高く、2月8日に行われた衆議院選挙でも、高市人気の勢いそのまま、自民党は歴史的な圧勝を収めました。

国内企業でも、女性管理職の比率は約20%を超えています。ただ、その比率が30%を超えている欧米諸国と比べると、日本における女性の活躍は緩やかと言えます。しかし、いずれにしても、世界各国で、女性リーダーは着実に増えて来ています。

その背景には、女性の社会進出を底上げする制度的な工夫もあります。例えば、「クオータ制」です。これは、色んな分野において、女性の比率を一定に保つ制度です。北欧のノルウェーでは、2003年に、女性が企業の役員会構成の40%を占めることが法律で義務付けられました。このように、重要なポジションに就く女性の増加を義務付けることで、意見の多様化や、男

女間の格差を無くすメリットが生まれます。その一方で、女性の割合を強制的に増やした結果、有能な男性が昇進できにくくなるといった逆差別に繋がるリスクも生まれます。

そんな課題もあり、日本ではまだクオータ制は導入されていませんが、欧州やアジア諸国では徐々に浸透してきており、それに伴って、社会的に重要な立場に就く女性が増えている現状があります。しかし、その傾向は、制度の工夫だけが原因ではないはずで

本特集で取り上げたいのは、女性全般の就業率や社会進出の度合いについてではなく、女性のリーダーが今の時代に求められているという点です。

そこで、女性リーダーにはどのような良さがあり、また女性リーダーが注目されるのは、どういう時代であるかを見ていくことにします。